

令和3年6月7日

苫小牧市長
岩倉博文様

新緑
代表 木村 司

新型コロナウイルス感染症対策に関わる要望書の提出について

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が収まらない中、本市では市長を先頭に全庁あげて速やかな感染防止対策や厳しい地域産業への幅広い支援を実施していただいていることに対し心から敬意と感謝を申し上げますところであります。

新型コロナワクチン接種については、本市では苫小牧医師会のご協力のもと、高齢者の接種が他都市に先んじてスタートすることができました。また、医療従事者の方々には、過酷な現場の中でも日々市民の命と健康を守るため、懸命に努力をされておられることに心から敬意と感謝を申し上げます。

国が北海道に対し「緊急事態宣言」を、本市も「苫小牧市感染拡大警報」を発令し、市民への安全安心の対策を取っておりますが、事態は長期化を避けられない状況となっております。地域経済や学校教育、医療・福祉など、さまざまな分野で深刻な影響を地域に及ぼしています。

我が会派では、今までの本市の政策を評価しつつも、切実な市民の声を踏まえて『新型コロナウイルス感染症対策に関わる要望書』を作成しました。感染拡大防止を行い、なおかつ同時に日常の市民生活を取り戻すために速やかな地域経済の復興やさらなる支援などを、今後の予算措置及び市政執行に取り組んでいただきますよう要望するところであります。

記

【別紙】 新型コロナウイルス感染症対策に関わる要望書

以上

【別紙】

新型コロナウイルス感染症対策に関わる要望書

1. 新型コロナワクチン予防接種について

① 介護施設の従事者の優先接種について

当市では高齢者の接種が他都市に先んじてスタートしております。今後、65歳以下の接種となる時期に、介護施設（特養・サ高住・ケアハウス・グループホーム・デイケアなど）やデイサービス等の高齢者通所施設の従事者、訪問サービス（看護・介護・入浴など）の従事者に最優先で接種を求めます。また、教育関係者（小・中学校、幼稚園、保育園等の従事者）や危機管理業務（自衛官・警察官・消防士）の従事者も優先接種の必要があることから、接種順位の検討と明確に提示することを求めます。

② 新型コロナワクチン予防接種の余剰対策について

ワクチンを接種する施設・会場においては、接種当日のキャンセルや、予診の結果で接種が認められない等の理由により、余剰ワクチンが発生し、廃棄される可能性があります。余剰ワクチンロスゼロにするため、上記で求めた優先接種者への接種への活用、仕組みの構築、被接種者を明確にするため「新型コロナワクチン余剰対策基本方針」を策定し、安心とわかりやすさの観点から市民へのきめ細かな広報での周知を求めます。

③ 自費診療のPCR検査費用の助成について

アナフィラキシーショック等の理由によりワクチン接種を受けられない人や、現在ワクチン接種を受けられない若年層が、経済活動等で必要に応じ自費でPCR検査を受ける場合、検査費用の一部を助成できる体制を構築することを求めます。

2. 経済支援について

① 事業者支援策のより丁寧な周知について

市内事業者が利用可能な国、道、市の支援策について、市民がより理解しやすいように周知に取り組むことを求めます。

② 事業継続支援事業について

6月定例会で補正予算として議案提出予定の事業継続支援事業について、市内の多くの事業者に行き届くように対象事業者要件をより広く弾力性のあるものにすることを求めます。

3. 軽症者向けの宿泊療養施設の設置について

6月に入っても道内の新型コロナウイルス新規感染者数が減少方向に転じることではなく、胆振地方はもとより苫小牧市内も増加の傾向にあります。市内で発症しても、市立病院の感染症病床も満床に近い状況にあり、軽症者や無症状者においては、現在札幌市内の施設に入所もままならず自宅療養を強いられています。しかし、報道では自宅療養中に突然体調の悪化で亡くなる事例さえあります。市民の健康を維持するため、療養スタッフの充実した宿泊療養施設を早期に市内に開設することを求めます。

4. 自宅待機となる陽性者及び濃厚接触者への対応について

高齢者施設通所者でクラスターが発生時、濃厚接触者が自宅待機になる場合、同居家族が面倒みる場合に感染拡大が懸念されます。宅配サービスを推奨やホテル療養施設を確保することを求めます。

5. コロナ禍の女性や子どもたちへの支援について

① コロナ禍での女性への支援

社会との絆・繋がりが薄くなることで不安を抱える女性や、寄り添った支援が必要にも関わらず支援が届いていない女性が増加しております。生活や仕事、DV被害、子育て介護に対して困難や不安があるため、この状況を改善するために相談できる拠点づくりを進めることを求めます。

② 子どもや教育現場への支援

コロナ禍で、子どもたちにとって学びの場は、日常の授業・友達関係の時間・学校行事など、さまざまな場面で制約を受けております。この状況が今後も長期に渡ることが想定されるため、子どもたちにとってかけがえのない学びの保証、心のケアを保護者とともに向き合える環境づくりを求めます。

6. 公共施設について

閉館中の市立図書館で読みたい本のリクエストを受け、受付で渡すことができるシステム作りを求めます。また、静寂な美術博物館や市立図書館は時短等で早期再開を求めます。